

イクメンに期待

最近では、家事や育児を積極的に行う「イクメン」や「カジダン」男性が増えているようです。それは、男性が女性に優しくなったのか、それとも家事や育児の楽しさを知って、女性にだけさせるのは勿体ないと思ったのか定かではありませんが、でも、男性が家庭に目を向けるようになったことは、良いことだと思います。

かつて、女性の活動家が「男女の固定的な役割分担意識を変えなければならない」と叫んでいたのを思い出します。勿論、女性の方からすると「男なんてマダマダよ！」という声が聞こえてきそうですが、世の中、随分と変わってきました。

私は、同世代の人と比べると、多分、家事や育児に関わった方だとは思いますが（家内の評価は分かりませんが）、昔は家庭を顧みず仕事に打ち込むのが男だみたいな風潮がありましたから、「イクメン」や「カジダン」男性が日本社会に定着しつつあることは、むしろ健全だといえるでしょう。

そして、この「イクメン」や「カジダン」男性が少子化に対する救世主になるかも知れない、そんな期待も生まれています。

先頃、厚生労働省の調査の結果、夫が休日などに家事や育児をする時間が長い夫婦程、子どもが2人以上生まれる割合が高いという結果が明らかとなりました。

更に詳しく見ていくと、子どもがいる夫婦の内、2010年までの8年間に2人目以降が生まれた割合は、夫の休日の家事・育児時間がゼロの場合は9.9%であったのに対して、1日6時間以上の場合は67.4%と約6倍以上となっています。

ちなみに、第2子以降が生まれた割合は、夫の休日の家事・育児時間が

1日2時間未満	25.8%
同2時間以上4時間未満	48.1%
同4時間以上6時間未満	55.3%

となっており、夫の家事・育児時間の長さで第2子以降が生まれる可能性につ

いては相当関係がありそうです。

確か1988年から公務員について月2回土曜日を休業日とする4週6体制がスタートしたのですが、当時私は道庁の人事課で職員の勤務時間制度などを担当しており、マスコミ等から何故土曜日を休みにする必要があるのか聞かれたものです。その際私が申し上げたことは、土曜日を休みにすることによって父親を家庭に返そうということ。もう一つは、我々の働き方自体を変えて行こうということでした。しかし現実には、週休二日制が定着した後も男達の行動パターンに殆ど変化はみられなかったように感じます。ところが昨今、「イクメン」や「カジダン」男性が脚光を浴び始めたのは、女性の社会進出が進み、共働き世帯が増えていることもあり、男は外で働き、女は家庭を守るといった考え方が成り立たなくなっているということがあるでしょう。しかも、渋々育児や家事に参加する男性も少なくないとは思いますが、むしろ、育児や家事の楽しさに気づき始めた男性が増え始め、それが今時の若い男性のスタイルになりつつあるということだと思います。

そうはいても、現状ではまだまだ職場での理解や協力が十分でないこともあり、育児や家事に積極的に参加する男性は決して多いとはいえません。女性が子育てしながら働き続けることができる環境を整えていくことは、少子化対策としても大変重要です。この為、国においては保育所の整備などに力を入れています。そうした政策だけでは不十分で、まずは「イクメン」や「カジダン」男性の存在が当たり前の中にするのが大事なのではないかと思う、今日この頃です。(塾頭 吉田 洋一)